

市役所に放水やはしご車 本番に備え消火や救助訓練

春の火災予防運動期間中の3月3日(金)に狛江市役所で消防演習が行われた。

市役所3階で火災が発生したという想定で市役所の自衛消防隊、狛江市消防団、消防隊が救急・救助・消火活動を繰り返し行った。

はしご車を使って屋上から逃げ遅れた人を救出する一方、ハイパーレスキューが上階から歩行困難な人を担架を斜めに張ったロープで降ろした。

訓練では松原俊雄市長が一日消防署長として一斉放水など現場の指揮にあたり、「実践に近い訓練を行い、いざという時に備えることが大切」と話していた。



子どもの夢乗せて上昇 ロケット体験教室開催

「四育ロケット体験教室」(市青少年第四育成委員会主催)が2月25日(土)に狛江第四中学校で開かれ、小学3年生から中学2年生の子など29人がロケット作りと打ち上げに挑戦した。

育成委員会は、中学校区ごとに設けられた子どもの健全育成支援団体。第四育成委員会(梅本ろり

絵委員長)ではこれまでドミノ倒しや防災教室などのイベントを年数回開いているが、ロケット体験は初めて。

狛江第五小学校の校長を務めた狛江市教育委員会地域学校連携支援マネージャーの石谷清隆さんが、北海道の産業機器メーカー植松電機の「夢を追えば必ず実現する」の理念に共感、「子どもたちが宇宙に興味を持ち、夢を実現できることを実感してほしい」と同委員会に体験教室の開催を提案して実現した。

教室では同社のオリジナルモデルロケット「α-セブン」を使用。全長38cmで、打ち上げに使う火薬の量は市販の花火より少なく安全性が高い。垂直に40m飛ばせるように設計されている。

参加者は委員らの指導で約1時間かかりでロケットの組み立てや彩色などに取り組んだ。その後、順番に校庭の発射台にロケットを設置。手にした電気スイッチで点火すると、ロケットは破裂音と同時に赤い炎を吹いて勢いよく上昇、子どもや保護者から大きな歓声が上がった。

ロケットに興味があって参加した四中2年(当時)の片居木一嘉さんは「組み立ては結構難しかったけれど、予想以上のスピードで



上がったのでうれしかった」と話していた。

4年ぶりに多摩川流域 郷土芸能フェスティバル

多摩川流域郷土芸能フェスティバルが2月19日(日)にエコルマホールで催され、狛江市の岩戸はやしをはじめ山梨県の丹波山村、小菅村、東京都の日野市、府中市、多摩市、稲城市、調布市に伝わるはやしや神楽、太鼓などの保存会が出演、ふるさとの香りを漂わせる貴重な芸能が披露された。

多摩川流域の自治体が郷土芸能を通して連携を深めようと毎年開かれてきたが、新型コロナウイルス感染症により、令和2年から中止していたため、4年ぶりの開催となった。

えきまえ広場では多摩川流域物産展が催され、フェスティバルに出演した自治体が特産品を販売、昼過ぎには売り切れるほど人気を集めていた。



Shop & Service Guide ...23

藤田不動産

藤田不動産は創業60年以上という市内で最も古い不動産会社のひとつ。

「地域一番のお客様満足度」「地域一番の取扱件数」を目標に市役所前交差点のビルで営業を続けており、扱う不動産のほとんどが市内の物件だ。

「地域」を大切にする不動産会社のフランチャイズ形式の集合組織「イエステーション」に加盟している。

働いているスタッフの多くが宅地建物取引士の資格を持っているのに加え、半数以上が狛江市内に住んでおり、市内の情報に詳しいのが特色だ。

同社は、不動産の売買の仲介、賃貸の仲介、賃貸物

地域密着型の経営続けて60余年 狛江の魅力発信にも取り組む



フリーダイヤル0120-13-2103 和泉本町1-2-8、営業時間午前9時30分～午後6時、火・水曜日休み

狛江で頑張る団体を応援します

市民公益活動事業補助金の受付スタート

狛江市で活躍する団体の活動を支援するため、狛江市では市民公益活動事業補助金の応募を5月8日(金)まで受け付けている。

対象は、市民公益活動を行う団体が市内で行う先駆的で将来性のある、または市民ニーズや地域性に適合した特徴ある事業(市の他の補助金等の財政支援の対象となる事業は除く)で、スタート補助金(上限5万円、総額20万円)とチャレンジ補助金(上限20万円、総額

140万円)の2種類がある。

5月28日(日)に行われる公開プレゼンテーションで交付する団体を選考する(スタート補助金申請団体は書類選考のみ)。

応募方法や対象団体、事業など詳しくは市ホームページを参照。

問い合わせ ☎3430-1111 狛江市政策室。

ホームページの二次元コード→



件の管理、コンサルティング業務、相続コンサルティング業務など、不動産のトータルな事業を展開している。最近、転勤や高齢

者の施設入居などにもなう空き家管理の依頼も増えているという。

藤田克彦さん(58)は3代目の社長で、創業者の藤田富平さん(故人)の孫。富平さんは都心で別の事業をしていたが、不動産取引引きでだまされたことをきっかけに「自分と同じ思いを他の人にさせたくない」と家業を長男に任せ、子どもの頃に知っていた狛江の将来性に着目し、友人と2人で昭和36年に不動産業を始めた。開業当初は知人も少なく苦労したが、賃貸を中心に扱いながら、徐々に地元の人たちの信用を築いて業績を伸ばした。

「一期一会になりがちな不動産業だからこそ、生涯にわたって不動産に関するありとあらゆる悩みを相談してもらえる会社にしたい」という創業の精神は2代目で藤田社長の父の博さんを経て現在も脈々と受け継がれている。その一環として、顧客との付き合いを永く保つことを目的に、10数年前から狛江市を中心とした近隣の不動産価格などを載せた「月刊不動産コミュニティ」と、藤田社長のコラムや不動産に関する情報を載せた「ふじちゃん通信」を発行している。

小田急不動産株式会社に勤めて不動産取引などの経験を積んだ後、29歳で入社して跡を継いだ藤田社長は、地域活動にも熱心に取り組み、狛江市観光協会の会長を務め、花火大会やイルミネーションなど狛江の魅力発信に力を注いでいる。今年も8月に花火大会が計画されており、その実現に向けて支援をしたいと意欲を燃やしている。



令和5年度「狛江市市民公益活動事業補助金」対象事業募集

市民公益活動を支援します!

狛江で頑張る団体を応援したい!
狛江市で活躍する市民のための活動を支援します!

スタート補助金 5万円まで(総額20万円)
※設立3年以上の団体(令和4年10月1日現在)

チャレンジ補助金 20万円まで(総額140万円)
※まだ設立3年以上の団体(令和4年10月1日現在)に限り申請可能です。

＜申請期間＞令和5年4月28日(月)から5月8日(月)まで
＜申請書類＞市ホームページよりダウンロードまたは市役所市民生活課窓口で配布
＜申請・問い合わせ＞ 狛江市政策室市民生活課庶務係
電話: 03-3430-1164
メール: kyodot@city.komae.lg.jp